2019年度大学院秋季入学式学長訓示（2019年10月1日）

本日、広島市立大学大学院に入学された皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。また、ご家族、ご友人の皆様、入学後に学生を指導予定の先生方にも、心よりお祝いを申し上げます。

広島市立大学は本年、創立25周年を迎えた比較的若い大学ですが、少人数教育を標ぼうし、学生主体の綿密で丁寧な教育を行っていることが本学が誇る特色です。大学院博士前期課程においては、国際学研究科では入学定員15名に対して教員44名、情報科学研究科では入学定員84名に対して教員97名が在籍しているなど、各研究科とも学年ごとにマンツーマン教育が行える教育体制を整えています。このような恵まれた教育研究環境の中、大学院に入学された皆さんには、勉学と修士研究に励まれることを期待しています。

さて、皆さんは学部を卒業された上で、大学院に入学されました。それでは、学部と大学院の違いは何でしょう。学問を学ぶ場、という意味では大きな違いはありませんが、私は学問に対する求められる姿勢が違うと考えます。学部においては、学問とは何か、学問を学ぶということはどういうことか、そして学問を学んで社会に貢献するということはどういうことで、どうすればそれを実現できるのか。そういうことを、基本的なことから学ぶ場です。ですから、教える側も、いわば学問の初心者に教えるつもりで、できるだけ学生に考えてもらうようにしつつも、学習目標を定めて、それを実現することを目的として、講義や研究指導を行います。

それに対して、大学院では、学問を自ら開拓する、すなわち研究に主眼が置かれた教育が行われます。もちろん、学部教育においても研究は重要です。皆さんも学部では卒業研究を行い、卒業論文を執筆したと思います。しかしながら、そこで第一義的に重要なのは、研究内容そのものではなく、研究における新規性とは何か、有効性とは何か、それらをどのように実証するのか、そうした研究の方法や研究のまとめ方をまず学び、その上で、世の中に役立つ研究成果を得ることが求められます。

それに対して、大学院博士前期課程の修士研究では、研究の内容自体により一層の重きが置かれます。いわば、研究者の卵として、学問をより発展させる

ことを目指して、学び、そして研究することが求められます。

もちろん、大学院博士前期課程を修了した学生がすべて研究者になるわけではありません。むしろ、多くの修了生は研究者以外の道を選んでいます。それでも、大学院において、学問とは何か、研究とはどういうことか、そうしたことを実践的に学び、深く理解した学生は、社会に出てからも、より幅広い視点から学問を活用することできるようになり、社会に貢献できると思います。

さて、大学院に入って、研究者の卵の仲間入りをする皆さんに、私から、２つのアドバイスがあります。１つは、くもりのない観察眼と常識に囚われない思考をしよう、ということです。唐突ですが、皆さんはシャーロック・ホームズを知っていますか。英国の作家コナン・ドイルが創作した名探偵です。私はホームズが主人公の探偵物語が大好きですので、多少、こじ付け的ではありますが、私がホームズ物語から学んだ、優れた観察眼と常識に囚われない思考が大切、ということをまずお話します。

例えば、長編小説「緋色の研究」において、後にホームズの友人となるジョン・ワトソン博士にホームズが初めて会ったとき、ホームズは一目でワトソン博士の経歴を言い当ててワトソン博士を驚かせました。ホームズ好きには有名な場面です。また、短編小説「シルバー・ブレイズ号事件」においては、犯行現場にいた飼い犬が、犯罪があったと思われる時間に吠えなかったことについて、他の関係者は誰もそのことに気を留めなかったのに、「それこそ不思議なことです。」と指摘し、事件解決の糸口を示唆しました。

例をあげればきりがないのでこの程度にしますが、シャーロック・ホームズのような観察眼と常識に囚われない思考は犯人を見つけるためだけではなく、研究にも絶対に必要なものです。目の前の事象に対して、例えそれが一見、何の変哲のないものに見えたとしても、こだわりのない目で観察し、常識に囚われずに思考するとき、新たな発見に出会う可能性が高まります。

もう１つ、皆さんに、アドバイスがあります。研究においては、観察眼と常識に囚われない思考だけでは、もちろん、不十分です。必要なものはたぶん、多数あると思いますが、きょう、私は、巨人の肩に乗る、ということをお話したいと思います。皆さんはアイザック・ニュートンをご存じでしょう。リンゴが木から落ちるのを見て、万有引力を発見したあのニュートンです。ニュート

ンは万有引力以外にも、光に関する学問、すなわち光学研究の先駆者であり、また、数学における微積分学の創始者のひとりでもあります。

そんな大学者のニュートンですが、自分の業績について、「私がかなたを見渡せたのだとしたら、それは巨人の肩の上に乗っていたからです。」と言っています。ここで、巨人の肩とは何でしょうか。それは、ニュートン以前に行われた学問的業績のことです。ニュートンは謙虚に、自分の業績は自分だけの力で成し遂げたものではなく、過去の学問の蓄積があったからこその自分の業績だ、と言っているのです。

ニュートン自身は謙虚の人とはいえない面もあったようですが、それはともかくとして、巨人の肩に乗るためには、過去の学問にも十分に目を配り、自分のものとする必要があります。学問的基礎をしっかり身に付けた上で、さらにホームズばりの観察眼と、常識に囚われない思考が結びついた時、私は新しい研究成果が得られるのでは、と思います。

もちろん、ホームズやニュートンだけにこだわる必要はないので、ぜひ、皆さんは自分なりのやり方を工夫し、大学院における学びと研究に励んでください。

最後にもう１つ。皆さんは本を読んでいますか。本を読むことはいろいろな意味で大切です。ここで本と言っているのは専門書に限らず、ありとあらゆる種類の本です。私は人生を悔いなく豊かに過ごす、間違いのない方法の１つは本に親しむことだと信じています。残念ながら、本好きの人は多いとは言えず、また、多くの人は社会に出れば、本を読む時間は限られてしまいます。大学院時代がヒマとは言いませんが、自由になる時間は比較的多いと思います。その中のいくばくかの時間を読書に充てることで、人生は変わります。ぜひ、トライしてみて下さい。

以上、これからの大学院での勉学が実り多いものになることを祈念して、私の訓示とします。本日はご入学、まことにおめでとうございます。

2019 年（令和元年）10 月 1 日

広島市立大学長

若林　真一